

⑤ 排尿誘導

▶▶ 排尿誘導は行動療法に含まれ、**定時排尿**、**習慣化排尿**、**排尿促進法**と合わせて計画療法という

Evidence ▶▶ 下記参照

適応 ▶▶ 下記参照

1. 定時排尿

【方法】固定した規則的な間隔で排泄介助を行う。

2～4時間の一定間隔、食事の前後、起床時や就寝前など定期的に排尿を誘導する。

【対象】自立排泄が困難な患者

【利点】**個別のアセスメントが不十分でも実施できる。**

【Evidence】高齢者尿失禁ガイドライン 証拠の強度C

2. 習慣化排尿

【方法】患者の**排尿習慣を排尿記録などで把握し、患者の排尿習慣に合わせて排尿を促す。**

【対象】**スタッフが排尿習慣を把握している患者**

【利点】定時誘導に比べて空振りが少なく、効率的に介護力を提供することができる。

【Evidence】高齢者尿失禁ガイドライン 証拠の強度B

3. 排尿促進法

【方法】**介護者や医療従事者が排尿の機会を作り排尿を促す方法**

【対象】**尿意を感じ取り訴えることができる患者**

またはトイレに誘導すると排尿することができる患者

【利点】尿意の自覚とその意思を伝える力を再学習する。

【Evidence】高齢者尿失禁ガイドライン 証拠の強度A



4. 超音波補助下排尿誘導法

残尿測定装置を使用して、排尿促進法を実施する方法もある。

排尿に適した尿量(評価時に測定した排尿量と残尿量の合計値)に

ほぼ達した時に排尿誘導する。

